

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212Q306	慢性期看護方法論Ⅱ (Chronic Nursing Practice Ⅱ)	専門教育科目 成人看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	前	月・3	脇 幸子・大野夏稀・佐藤昂太郎 内線 5052 E-mail: syamasit@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

慢性期看護方法論Ⅰと同事例を用いてさらに深化させ、“慢性の経過をたどる人への看護”として、慢性疾患を持つ人が成人保健対策や外来通院や入退院を繰り返しながら、セルフケア能力を駆使して病気と向き合い、治療や健康障害に伴い生活を調整あるいは再構築することを支えるといった、QOLの向上・充実を目指すためのセルフケア支援について演習する。また、在宅療養に向けた退院支援では、地域包括ケアシステムの中で継続的な支援と社会資源の活用など長期に療養生活を送る対象や家族への看護について学ぶ。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 病みの軌跡やセルフケアなど理論を活用して、慢性疾患をもって生きる対象や対象のセルフケア行動形成を説明できる。			○	○			○
2. 慢性疾患をもつ人の生活習慣や様式の変容、セルフケア支援の方法論について理解し、援助的コミュニケーションを実施する。	○	○	○				
3. 慢性の経過をたどる人の慢性的なゆらぎの再調整、セルフケアを促し慢性疾患との共存を支える看護援助の方法を理解し、実施する。	○	○	○				
4. 慢性疾患を持つ人に必要な在宅療養に向けた退院支援、社会資源の活用方法を理解し、実施する。	○	○	○		○		

【授業の内容】

1	オリエンテーション・成人教育・セルフケア支援のアプローチ方法	
2	成人教育・セルフケア支援のアプローチ方法・グループワーク (演習計画・準備)	
3	成人教育・セルフケア支援のアプローチの演習 (セルフケア段階・意思決定支援) *全体ディスカッション	2型糖尿病をもつ就労者へのセルフケア支援
4		肝がんのある就労者へのセルフケア支援
5		労作性狭心症を持つ就労者へのセルフケア支援
6		慢性腎不全のある人へのセルフケア支援
7	グループワーク (演習計画・準備)	
8	在宅に向けての退院支援の演習	ALS or クロウン病をもつ人への看護 在宅医療処置：人工呼吸器・吸引 or 経管栄養
9		慢性呼吸不全 or 慢性心不全のある人への看護 在宅医療処置：在宅酸素療法
10	*全体ディスカッション	SLE or 血液がんをもつ人への看護 外来通院：薬物療法
11	脳血管障害のある人への看護事例：医療、福祉の連携、社会資源の活用、入院から在宅への連携・継続看護	

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	授業評価シート 課題レポート	*慢性看護方法論Ⅰと同事例を用いて、看護計画を立案した中から実施をする。 *社会資源や医療器具の実物使用し、シミュレーションやロールプレイを実施する。 *Moodle活用：撮影動画活用
B：意見の表現・交換	○	発問・グループワーク・ディスカッション	
C：応用志向	○	グループワーク・事例検討・患者体験・ロールプレイ・シミュレーション	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	演習および課題レポートに向けての準備 (10h)
事後学修	演習および課題レポートの作成 (10h)

【教科書】慢性期看護方法論Ⅰと同様

【参考書】必要時に提示する

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
演習：自己評価・グループ評価・教員評価	35%		○	○	○
課題レポート	65%	○	○	○	○

【注意事項】履修条件：慢性期看護方法論Ⅰの単位を取得していること

【備考】授業評価シートの提出をもって出席状況を確認する

教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	脇 幸子（看護師,大分県糖尿病療養指導士）・大野夏稀（看護師,保健師,がん看護専門看護師）、佐藤昂太郎（看護師・保健師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	演習や講義を通して、生活習慣病、がん、難病、感染症などの慢性疾患を持つ対象の理解と入退院を繰り返しながら長期に療養生活を送る対象や家族への看護についての知識・技術・態度を支援する。	
授業形態	面接授業	